

NGOマイティ・ネパール代表 アヌラダ・コイララ氏

聞
事



アヌラダ・コイララ ネパール生まれ。カトマンズで英語教師として20年以上勤めた後、マザー・テレサの影響を受け、仲間と共にマイティ・ネパールを設立。手を差し伸べた女性や子供は1万2000人以上にのぼる。米CNNテレビ主催「2010年世界のヒーロー」にも選ばれた。

手口など巧妙化 震災で対応後手

四月に大地震に見舞われたネパールでは、親を失った子どもだけでなく、家や仕事を失った親も、インドや中国、中東に売春婦や低賃金労働者を送り込む人身売買業者の標的になっているとされる。主要産業が農業と観光業しかなく、山間部の人は「子どもにいい仕事がある」と誘われると、すぐ信じてしまうからだ。人身売買問題に取り組む「マイティ(母の家)・ネパール」のアヌラダ・コイララ代表(左)にネパールの人身売買の実情を聞いた。

人身売買 ネパールの実情

「当初家政婦として働かせると言っていたのに売春婦として働かされたり、偽装結婚や出家させるというケースが多い。売向は。」

「子どもにいい仕事がある」と誘われると、すぐ信じてしまうからだ。中国、中東方面へと広がっている。恐らく年間では数千人単位で売られてしまっているだろう」

「マイティ・ネパールは国境に監視員を置き、人身売買による国外流出防止に力を入れており、一日平均二十人を保護している。女性や子どもという弱い立場を標的にする犯罪は許せない」

「地震後の動きは。人身売買のあっせんブローカーがここが好機とばかりに、活発に動いている。警察も震災で仕事量が膨大に増えており、プロカーの監視、捜査にまで手が回らないのが現状だ。手口が巧妙化している」

「ネパールには電車が走っていないのに『電車を見に行こう』と言ったり、『余震が続いて山岳地帯は危ない。山を降りて安全な場所へ行こう』と言ったりして、女児を誘うケースが増えている。知識が乏しく、純粋な山間部の人たちの心に付け込む手法だ」

「国の支援も遅れている。仕事が見つけられず、自宅がない状態が続くと、さらに人身売買は増えるのではないかと。国に提訴したいことは。」

「私の元にも相談がひっきりなしに続いている。どれも切実だ。政府は二十六カ所以上の主要な国境で監視しているが、陸路は国境管理が緩い場所もあり、今の国の対策だけでは不十分だ。深刻に受け止め、関係部署が連携することで一層の強化を求めたい」

「最近、人身売買に取り組む非政府組織(NGO)がたくさだらう」

カトマンズ近郊の孤児院。夕食前、孤児全員が歌い踊り合っていた



マイティ・ネパール 1993年、貧困に苦しむ女性らの支援を目的に発足した。人身売買被害者の避難施設や、HIV感染者のためのホスピスを運営。識字教育や職業訓練、啓発活動などを実施する。孤児らを保護し、心のケアや教育の機会も提供。人身売買が盛んなインド、中国との国境で監視を強化する。

GLOBAL VIEWS

マイアミの裁判所で強盗... は裁判官に出身中学を確認され、同級生だったと... 一緒にサッカーをした」と語り掛けると、男は泣きじ